

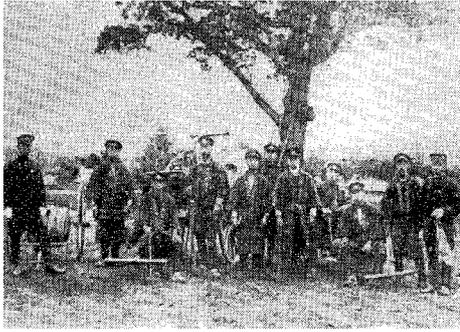
郷土を守りつづけて100年

創設 のあゆみ

安平町が誕生して今月27日で1年を迎えます。火災や救急など私たちが安心して暮らしていくうえで消防の仕事は不可欠な存在です。明治40年に早来消防の組織ができて今年で100周年を迎えました。住民の生命と財産を守り続けて一世紀。さまざまな写真や資料をもとに早来消防が歩んできた歴史を振り返ってみます。

消防組の誕生

明治22年植苗村美々の佐々木駒吉、ヤエ夫妻がフモンケの地に安平村の開拓の鉞がおろされて以来、室蘭線鉄道の開通と停車場の開業により入地者の数も次第に増加して、市街地を形成するとともに、火災発生による被害及び河川の氾濫による水害等により、住民の間に消防機関設置の必要



大正5年ころの早来消防組

が痛感されるようになりました。

【早来消防組】

明治40年1月18日

私設消防組創設 組員50名

【安平消防組】

昭和4年7月

私設消防組創設 組員25名

【遠浅消防組】

昭和5年10月

私設消防組創設 組員25名

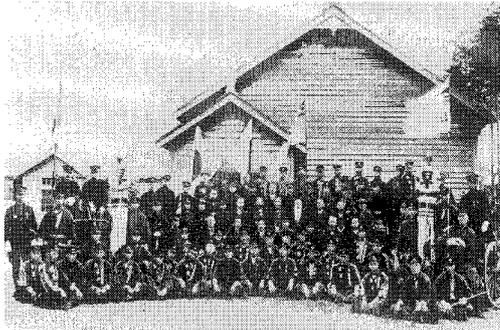
【追分消防組】

明治30年4月1日

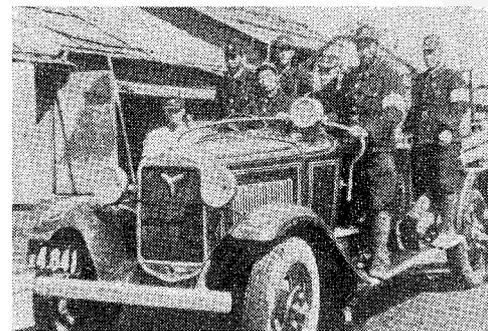
私設消防組創設 組員20名

戦時下、警防団へ

昭和12年、日中戦争が勃発。国内の警備体制を強化するため消防組から警防団という組織になる。昭和16年から始



大正11年早来消防組秋季演習



昭和15年 安平村警防団第1分団消防班

まった太平洋戦争も、末期になるとアメリカ軍の日本本土空襲が激しくなり、苦小牧・安平方面にも来襲し波状攻撃による銃爆撃がなされ、飛行機が飛びさるのを待つて警防団が腕用ポンプや水バケツで消火に当たりました。

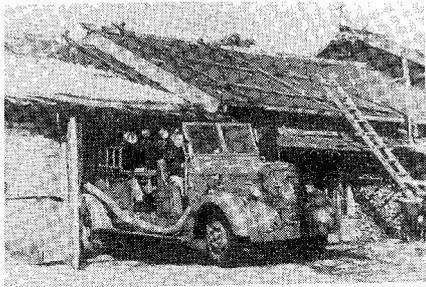
【安平村警防団】

昭和14年4月1日

早来町消防団の誕生

太平洋戦争が終結し、我が

国は連合軍の指揮下、日本の民主化が進められました。防空警備の必要性がなくなつたため消防も警察から分離され、警防団が廃止されてなくなり、新たに消防団



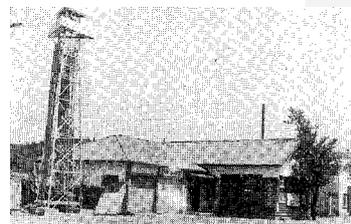
昭和23年に購入の消防自動車と当時の消防番屋

さらに昭和32年1月には町制が施行され、早来町消防団と改称されました。当時「消防番屋」と呼ばれた建物は、い

昭和29年10月に村名を安平村から早来村に改めたので、消防団も早来村消防団と改称

が組織されました。【安平村消防団】昭和22年8月1日

第一(早来)、第二(遠浅)、第三(安平)、第四(追分)の4分団で構成されました。定員は200名以内とし任命式終了後、団長、副団長の選挙が行われ開票の結果、団長に小野寺慶蔵(追分)副団長に小野寺新平(追分)と黒田五郎(早来)が選出されました。昭和27年8月に安平村区域のうち追分地区を分村し、追分村を設置したので組織の一部を変更し、現在の分団名に呼称が変更されました。



早来消防会館